

## 2.3.2 超過荷重時における引抜き耐力

くさび型アンカーは従来型アンカーのように超過荷重時に達しても、急激に引き抜ける恐れが少ない。図 3.2.1 はそれを裏付けるものであり、荷重 630kN で引き抜け後、再び同様な引抜き耐力を確保している。

これは図 3.2.2 に示すように、拘束具が大きく引抜け変位しても周辺地盤にはほとんどダメージをもたらさず、引き続き周辺地盤の弾性変位内で支持されることによるものである。

このような特徴から、地震等の不測の外力が予想される場合に適する工法といえる。

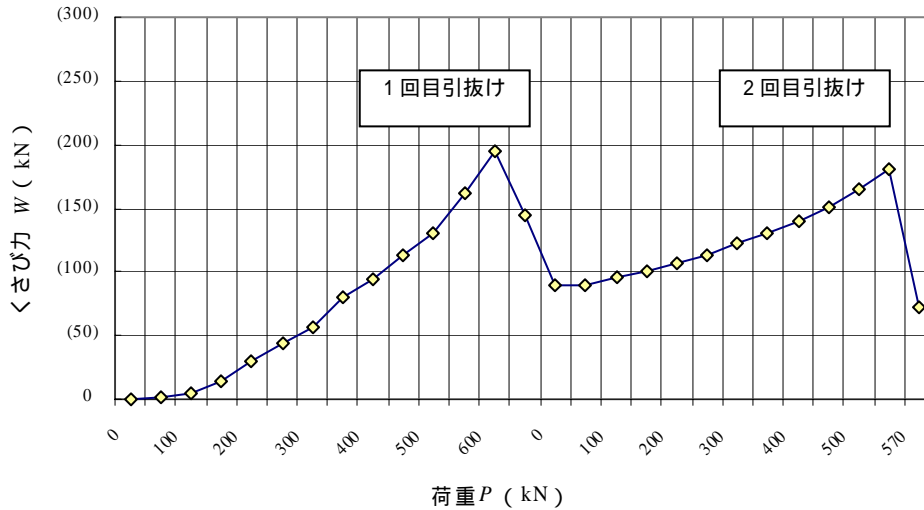
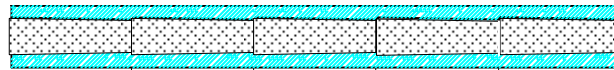
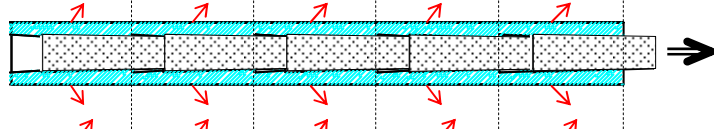


図 3.2.1 アンカー体の引抜け状況

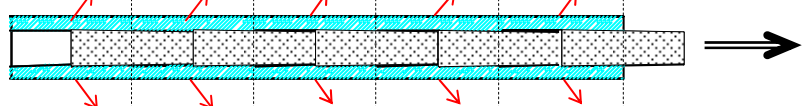
1 初期状態



2 引抜けにともなう周辺地盤の変形と引抜き耐力の増大



3 引抜き量 50mm 時に最大引抜き耐力が得られる。



4 上記を過ぎると拘束具ユニット (10cm 長) が急速にひとつ移動し、再び 2, 3 と同様な引抜き耐力を發揮する。

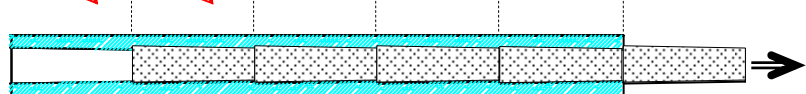


図 3.2.2 アンカー体の引抜けと引抜き耐力の関係